

解 答

1 (D)	2 (C)	3 (D)	4 (C)	5 (B)	6 (D)
7 (C)	8 (B)	9 (A)	10 (B)	11 (B)	12 (B)
13 (D)	14 (A)	15 (D)	16 (D)	17 (C)	18 (B)
19 (C)	20 (D)				

1. 「車の販売店ならいくらでもいいところを教えてあげるよ」

▶ dealers は可算名詞の複数形なので、(C)の amounts は不自然。(B)の several good car dealers「いくつかのよい車の販売店」ならよいが、several numbers とは言えない。(D)any number of ~「～をいくらでも」の意味で、number of の後には可算名詞がくるので、これが適切。

□ **any number of A** 「(かなり)多くの A」 (= a large number of/a lot of/many)

any number of times (何度も)

▶ the number of A(複数名詞)「A の数」が主語の場合は单数扱い。

▶ a number of A(複数名詞)「たくさんの中の A」が主語の場合は複数扱い。

2. 「この川はこの地点で幅が数マイルあります」

▶ 数量に関わる表現(several miles)は形容詞の前にきて、「S is + 数量表現 + 形容詞」の構文になる。

形容詞を並べる語順			
冠詞や人称代名詞や名詞の所有格	my	a	
数量	ten		
主観的判断(fine/lovely/niceなど)	cute		
大小	small	large	
年齢・新旧	young		
色	white	brown	
材料・出所	Dutch	leather	
[例] Come and see my ten cute small young white Dutch rabbits. (私の 10 匹のかわいい小さな子どもの白いオランダうさぎを見においでよ。)			
I'm looking for a large brown leather bag. (私は大きな茶色の革のかばんを探しています。)			

3. 「ケイコはコーヒーが好きではない。私も好きではない」

□ **neither[nor] + 助動詞 [be 動詞] + S 「S もまたそうでない」**

▶ 前の否定の内容を受けて、「S もまたそうでない」という場合、neither + 助動詞 [be 動詞] + S の倒置形を用いる。

▶ nor は接続詞なので、文中に and などの接続詞がある場合使えない。

The first isn't good and neither[^nor] is the second.

(最初のはよくないし、2 番目もよくない。)

□ **so + 助動詞 [be 動詞] + S 「S もまたそうだ」**

▶ 前の肯定の内容を受けて、「S もまたそうだ」という場合。

▶ 前文に一般動詞が用いられている場合は do[does/did]を使う。

4. 「ケンは留学のための奨学金を与えられたが、それを断って日本にいることに決めた」

□ **turn down ~「～を拒絶する」 (= refuse/reject)**

Her request for a pay raise was turned down again.

(彼女の賃上げ要求は再び拒絶された。)

▶ **turn down ~「(音量などを)小さくする」** (⇒ turn up)

□ **turn up ~「(音量などを)大きくする/(ガスなど)を強める」**

▶ 自動詞用法で turn up 「現れる/姿を見せる」 (= appear/come/arrive)

□ **turn around 「回転する/ぐるりと向きを変える」**

□ **turn over 「回振り返る/～をひっくり返す」**

5. 「雨にあたらないようにすぐに中に入れなかつたので服が濡れてしまった」
 ▶ come in from the rain は「雨にあたらないように(建物などの)中に入る」の意味。
 □ **come in** 「(部屋・家などに)入る/入ってくる」
Come in and make yourself at home.
 (中へ入ってくつろいでください。)
 □ **come out** 「(日・月・星が)現れる/ […から] (外へ)出てくる」
 □ **come over** 「[…へ/…から] やって来る [to/from]」
 □ **come away** 「[…から] 離れる/去る」
6. 「エリーは来週月曜日までに彼女のプロジェクトを終えなければならない。さもないと、上司と厄介なことになる」
 ▶ 第1文を受けて意味を通るものを選ぶ。(D)otherwise は「さもないと」の意味の副詞。その他の選択肢は、(A)except「～以外(の)」、(B)besides「その上/さらに」、(C)additionally「その上/さらに(加えて)」という意味である。
 □ **get in trouble with ~** 「～と問題を起こす/やっかいなことになる」
They're always getting in trouble with their boss.
 (彼らはいつも上司といざこざを起こしている。)
 ▶ **get in touch with ~** 「～と連絡をとる」
7. 「アンディは月曜日に病院へ行って手術を受ける予定だ。その後は2日ほど家で休養が必要だろう」
 ▶ 前文を受ける関係代名詞 which の用法。(D)の after that ならば、コンマではなく、and after that のように接続詞が必要になる。

継続用法の which の用法

継続用法の which は、名詞や名詞句を先行詞とする場合でなく、直前の文の内容全体や、その文中の一部の語句や節を先行詞とすることがある。

- (1) He wore a brown suit, **which** was made in Italy. 【先行詞が語句】
 - (2) He said he wasn't afraid of ghosts, **which** wasn't true. 【先行詞が節】
 - (3) It rained all day yesterday, **which** I expected. 【先行詞が文全体】
 - (1) 彼は茶色のスーツを着ていたが、それはイタリアで作られたものだった。
 - (2) 彼は幽霊は怖くないと言っていたが、それは本当ではなかった。
 - (3) 昨日は1日中雨だったが、それは思ったとおりだった。
- (1)では、which の先行詞である a brown suit に、it was made in Italy という説明を付け加えている。
- (2)では、which wasn't true(それは本当ではなかった)という関係詞節の意味から考えると、which の先行詞は he wasn't afraid of ghosts という節だとわかる。
- (3)では、which I expected(それは思ったとおりだった)から考えると、主節(It rained all day yesterday)の内容全体が先行詞となっていることがわかる。

8. 「一週間以内にあなたの求職応募に関して決定を致します」
 ▶ 文意上「一週間以内に」と理解するのが妥当。したがって、(B)within が適切。
 (A)for は期間「その間」を表し、不自然。
 □ **make[take] a decision** 「決定する」
We must make[take] a decision on this right now.
 (それについてはすぐ決定しなければならない。)
- **concerning** 圖「[名詞の後で]～についての/[通例文頭で]～に関して言えば」
9. 「ひどい天気のことを考えると、かなり多くの生徒が遅れてくると思った」
 ▶ ここでの given は分詞構文で使われる過去分詞で、「～を考慮すると」の意。(C)は considering であれば可。
 □ **given** ~ 「～を考慮に入れる」と (= considering ~)
Given the fact that I was tired, I managed to play the piano pretty well.
 (疲れていたという事実を考慮すれば、私はなんとかかなり上手にピアノを弾いた。)

▶ given は前置詞または接続詞の働きをする慣用的な分詞構文。

□ expect A to do 「Aに～してほしいと思う/Aが～するだろうと思う」

I expect the bus to come on time.

(私はバスが時間通りに来ると思う。)

10. 「なんてことだ。バスが遅れている。映画の最初の部分を見るのに間に合うように映画館に着くことができないよ」

▶ 文脈より、(B)in を選び、in time「間に合って」とするのがふさわしい。(C)は by the time ~「～するまでには」という意の接続詞表現で『完了の期限』を表す。

□ in time 「間に合って/遅れずに」

In spite of the traffic accident, she was in time for class.

(交通事故にもかかわらず、彼女は授業に間に合った。)

▶ in time には「やがて/そのうちに」の意味もある。

Many dreams come true in time [sooner or later].

(多くの夢はそのうちに実現する。)

11. 「政府はその権威が野党によって問われていると感じていた」

▶ この文脈における challenged は「疑間に思われる/意義を申し立てられている」の意味である。その他の選択肢は、(A)avoid「～を避ける」、(C)prevent「～するのを妨げる」、(D)interfere「邪魔をする」という意味である。

□ challenge ~に異議を唱える、～に挑む

I didn't think she is right, so I challenged her.

(彼女が正しいとは思わなかったので、彼女に異議を唱えた。)

12. 「あなたはお客様ですから、勘定を払う義務はないですよ」

▶ it は形式主語。したがって、pay the bill「請求書を支払う」ことは「あなたの義務であると考えなくてよい」と理解するのが妥当である。

(A) principle「原理、主義」、(B) obligation「義務、[…への]感謝」、(C) expectation「予期、可能性」、(D) service「公益事業、業務、サービス」。

形式主語の it

不定詞句や that 節などが主語になる場合、形式上の主語 it を文頭に置いて、眞の主語である不定詞句や節などを後に回すことが多い。

It is true **that time is money**. (時は金なりというのは本当だ。)
形式主語 真主語

13. 「今日出た新しいテレビゲームは良さそうだね。やってみたいな、待ちきれないよ」

▶ can't wait to do は「～するのが待ちきれない」の意。try はこの文では「～を試してみる」の意。

□ come out 「出版される (=be published)/発売される」

His new novel will come out next month.

(彼の新作小説は来月出版される。)

cf. bring out ~「～を出版する」

14. 「向こうにある大きな赤いネオンサインが人々の目を引いている」

□ catch[attract/arrest/draw] one's attention 「(人)の注意を引く」

Her ring caught[attracted] his attention.

(彼女の指輪が彼の注意を引いた。)

□ pay attention to A 「Aに注意を払う」

You should pay attention to how much you eat.

(食べる量に注意した方がいいですよ。)

15. 「それを全部どうやって覚えたの。本当に記憶力がいいですね」

▶ (A)intelligence「知性、理解力」、(B)memory「記憶、思い出すこと」、(C)genius「才能、天才」、(D)recall「回想、思い出す能力[こと]」。文脈より、空欄には『記憶力』に相当する語がふさわしいが、memory は可算名詞なので(D)の recall が最適であ

る。

□ **have good recall** 「記憶力がよい」 (= **have a good memory**)

16. 「マークに忘年会に来させてあげてはどうですか？」

- ▶ **Mark** のあと **come** に注目する。選択肢全てが動詞なので、「SVO do」の形をとる動詞を選べばよい。**come** の原形につながるのは、『使役の let + 目的語 + 原形』の形である。

「SVO do」の形をとる動詞

「SVO do」の形をとる動詞は、**make/have/let** の使役動詞 3つと、**see/hear/feel**などの知覚動詞に限られる。

□ **let A do** 「(望みどおり[勝手に])A に～させる/A が～するのを許す」

(= **allow A to do**)

Let me explain my plan.

(私の計画を説明させてください。)

17. 「ジョンは上司に新しいプリンターを購入してもいいか聞いたが、彼の要求は却下された」

- ▶ 「要求」の意味では、(C)request が適切。その他の選択肢は、(A)reply「返事、応答」、(B)response「反応、応答」、(D)record「記録」という意味。

18. 「もう少しいないといけないので、先に会議に行ってくれるかい？」

□ **ahead of A** 「(位置的に)A の前に/(時間的に)A より先に」

I arrived ahead of the others.

(私は他の人たちより先に着いた。)

cf. **ahead of time[schedule]** 「予定より早く/前もって」

19. 「地下鉄の駅は私の家から 10 分で着けるところにあります」

- ▶ (B)arrive 「到着する」は **arrive at** と前置詞が必要。これは受動態になんでも同じ。したがって、(C)の他動詞 **reach** が適切。

20. 「次の会議の予定を変更する必要があります。来週の皆さんのご都合を知らせて頂けますか」

- ▶ 選択肢がすべて名詞であるので、文脈からふさわしい語を選ぶ。会議の日程を再調整するのであるから、ここでは(D)availability「人が利用できること/つかまえられること」がふさわしい。

(A)acceptability「受容性」、(B)possibility「ありうること/可能性」、(C)probability「見込み/蓋然性」、(D)availability「(入手の)可能性/利用できること」

□ **inform A of B** 「A に B を知らせる」

Please inform us of any change of address as soon as possible.

(住所変更がありましたら、できるだけ早くお知らせください。)

remind A of B タイプの動詞

この of は『関連』の of で「～に関して/～について」の意味を表す。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| □ remind A of B | 「A に B を思い出させる」 |
| □ inform A of B | 「A に B を知らせる」 |
| □ convince A of B | 「A に B を確信させる」 |
| □ persuade A of B | 「A に B を納得させる」 |
| □ warn A of B | 「A に B を警告する」 |